

て居る」など、思ひまして、益々一分時も目を離さずに監督して居る事の必要を見とめます。そうして眼を光らせ、心を電の如くはたらかせて見はつて居りますから少しの間も心の安らかな穏かな時はありません。斯様なのは決して小兒に取つて楽しい友、愛すべき保護者ではありません。

ですから小兒は斯様な人の前では天真爛漫に無邪氣に遊ぶ事は出来ません。従て其人の見て居ない處では其反動として勢不法の事までもふるまひます。斯様になりますと大人も小兒も兩方共おもしろくありませんから其間に眞の教育の出来よう筈はありませぬ。故に或範圍内では小兒の自由に任かせて置いて、そして守らせるべきことは十分嚴重に守らせ、監督者が見て居ない處でも守るべきことは守り、してわるい事はせぬ様にしつけて置

いて、或範圍内では小兒を信用して安心して小兒の自由に任かせて置くことの出来る様にしたいたいののでございます。

家庭閑話

その子

▲豫期に反して樂しみの少きは結婚後の生活なり
 豫期に反して樂しみの大なるは始めて儲けたる幼兒を育つることなり。

▲家庭を愉快にせん事、何人も願ふ所なれど、さて、結婚前に描きたりし理想の實際に當りては、百分一も現實にせられざるは、誰もく經驗せらるゝ事なるべし。理想の時代には、現實に必らず伴ふもろくの障害を勘定に入れざると、且つ豫

期する空想の餘りに大なるが故なり

▲如何にして家庭を愉快ならしめんか、先づ一家の中より秘密といふことを排除せまし。お父あんに秘密、妻君に秘密、お婆さんに秘密、秘密といふこと既に一の罪惡あり。猜忌之より生じ、邪推之より來り、怨恨嫉妬之より出で、遂に癪すべからざる感情の衝突は、更に大なる罪惡を生むに至らんなり。あはれ一家の中より總べての秘密を取り去らんには、融然として春の海の如からん。さるにても何處の臺所にも、忌むべき骸骨のあるは、免れ難き事よ。

▲我國の家庭に入れたきものは、音樂(殊に西洋音樂)等美術の思想、家族向運動(例令ばピンボンの類)善良なる書物の論議など……

▲夫の世に時めくに當りては、あはれ いみじき

貴夫人よと世にもてはやされし妻の、夫逝きて後は、一向に凡庸の婦女子と異なることなきを見ることの多きこそゆゝしけれ。

▲聖パウロと呼べる人コリントの人に書を送りて曰く、不信なる夫は妻によりて潔くなり、不信なる妻は夫に由りて潔くなると。

乳母の選み方につきて

原 米 女

●古昔から名を歴史に止めた人には、父母の感化によらないものは尠いのであります、否無位であります。

●有名な露の文豪の、トルストイ伯爵自身は貴族で、あわりなきから、什麼に良き乳母でも、保姆